



TITLE:

十二月の天象

AUTHOR(S):

---

CITATION:

十二月の天象. 天界 1922, 2(24): 273-274

ISSUE DATE:

1922-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159799>

RIGHT:

が多數來て居りましたので中々の盛會でございました。次のやうな順序で行ひました。

× × × × × ×

講話「月世界の地理」 山本孝二郎

その後で補習生徒の爲及び新しい會員の御方の爲にあまりよい空ではありませんでしたけれども星座の案内と月面觀測を行ひました終つて當支部會員の懇談會を行ひ、發表やら質問やらで十時半頃までをこの研究で過しました。(十一、五)

× × × × × ×

大正十一年十一月五日

午後日光を浴びて

## ○岡山支部十月通信

- 1、天界研究會 十四日宮原幹事宅で開會、
- 2、通俗講演會 二十九日午前十一時から一時間半、水野支部幹事は津山博物館會の主催の許に津山中學校で左の講演をした。
- 一、太陽について

3、「天文童話太陽の親類めぐり」は水野支部幹事の著で、山本理學士の校閲を経たもの目下印刷中であるから近々出版せられるで

あらう。内容は太陽、各遊星衛星、流星、彗星、對日照、ハーシエル一家、太陽觀測所、我が國の天文臺めぐり等で、發行所は東京、警醒社書店、定價は約壹圓五拾錢。

## 十二月の天象

太陽 十二月中の太陽の赤經は十六時二十七分から十八時四十四分迄増加し、其の赤緯南二十一度四十四分から二十三度四分増加する。二十二日に赤緯南二十三度二十七分の最大極値に達する。八日午前六時十一分大雪節。二十二日午後十一時五十七分冬至太陽は冬の最初の宮の磨羯宮に入る。而して太陽は丁度地球の冬至線上を直射する様に天頂點に來る此の時から太陽は徐々に此方に動く。

月 四日午後八時二十四分滿月。十二日午前一時四十一分下弦月。十八日午後九時二十分新月。二十六日午後二時五十三分上弦月十五日午前〇時五近地點に、二十七日午前一時一遠地點に來る。

水星 十五日に赤經十七時四十九分、赤緯南二十五度十分即ち射手座にあり。七日午前

四時太陽と順合となる、同日午後十一時遠日點に來る。而して本月中は觀測に不便である。十九日午前十時下弦月と合(水星は六度五十四分南)二十八日午前七時南方最大日心黃緯。

金星 十五日に赤經十五時三十一分、赤緯南十六度三十分即ち天秤座ガンマ星の南方にあり、曉天の星、太陽から迅速に離れつゝあり、月末には觀測に容易、餘り輝いて南東の空に於て其位置を發見するには何の困難もない。四日午前四時昇交點に來る。十五日午前一時留。十六日午後三時三十四分下弦月と合。三十一日午前十時最大光輝。

火星 十五日には赤經二十二時二十一分、赤緯南十一度二十七分即ち水瓶座シグマ星の西方にあり。光輝は十五日には〇、八等、三十一日には一、〇等となる。距離は一億二千九百六十六萬二千里。二十四日午後三時二十六分下弦月と合(火星は二度十七分南方にあり)二十五日午後六時二四分天王寺と接近したる合をなす(一火星は七分南にあり)

木星 十五日には赤經十四時三十三分、赤緯南十三度五十四分即ち天秤座にあり。曉星にして太陽の前三時三十分昇る。年末に於ける位置は天秤座首星(γ、九等)に非常に近い。十五日午後三時五十分下弦月と合、(木星は南二度三十三分にあり)

**土星** 十五日には赤經十三時十一分、赤緯南

五度一分即ち乙女座シータ星の東方にあり  
曉天星のにして先月よりも觀望に良し。十  
四日午前三時四十五分下弦月と合（土星は  
北二十七分にあり）年末に於ける位置はス  
ピカ星の北方凡そ五度にあり。

**天王星** 十五日には赤經二十二時四十七分、

赤緯南八度三十三分即ち依然水瓶座ラムダ  
星附近を順行中、望遠鏡でなければ見えな  
い。三日午前二時太陽と短象。二十四日午  
後四時五十七分下弦月と合（天王星は南方  
二度五分にあり）廿五日午後六時廿四分火  
星と合（火星の北七分にあり）

**海王星** 十五日には赤經九時二十二分、赤緯

北十五度三十六分即ち獅子座にあり。曉天  
の星で九日午後十時十三分下弦月と合（海  
王星は北方三度二十一分にあり）之も望遠  
鏡的惑星である。

**雙子座流星群** 一日から十四日迄の期間に現

はれ、十一日に最も多く出現する。（工生）

**アルゴル** 極小時推算（中村生）

二日	午後一〇時五十一分
五日	同 七時四十分
廿日	午前 三時四十五分
廿三日	同 〇時三十四分
廿五日	同 九時三十三分
廿八日	同 六時十三分

**吉田源治郎著**

定價參圓五拾錢  
送料拾八錢

# 肉眼に 見える 星の研究

パピロンの宗教は星に依て生れ、ギリシヤの藝術も星に依て養はれたのでした。この人間に恵まれた最も美しい習慣である星を見る事が、近世の望遠鏡の出現に依て、遂に専門化したことは、民衆の美的生活に於て餘りに悲しい出来事です。けれども過去の天文学は、肉眼に依ての觀測史です。水々しい一つの肉眼が、如何に驚く可き數々の發見と、美しい魂の住家を造つたかを考へた時、再び肉眼の偉力を信ぜずにはゐられない。本書は再び天文趣味を民衆の生活に取戻すための努力で何んな素人が見ても直ぐわかる様一つ／＼肉眼に見える星座の圖を挿入し古人の心に湧いた傳説を記載してあります。

圖七十四圖挿

**水野千里著**

定價五拾錢  
送料四錢

## 國定教科書 星の話解説

本年四月改訂の小學讀本には「星の話」が載つてゐますが、その話を兒童に徹底的に飲み込まれる爲には天文学の一般的素養と特に大熊座、小熊座に就ての相當の知識がなくてはなりません。そこで、教師及び一般家庭への參考書として生れたのが本書であります。

京東替振  
番三五五

店書社醒警

橋京京東  
二町張尾